

拝啓 今年も早や 10 月下旬となりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。急に寒い日が混じるようになりました。近所の公園ではもう紅葉が始まっています。

今月は、石館守三先生の文章の 13 回目、最終回です。同志会OBの村上劉治さん編纂の資料「石館守三先生金曜会語録」から引用させていただいたおかげで、13 回も続けることができました。石館先生が、同志会の学生たちに伝えたかったことは、志を持って、という事ではないでしょうか。私達中高年の世代の者も、残された人生を何のために使うべきかを考えました。ある程度長期的な目標を立て、毎日毎日を浪費することなく過ごしたいと思います。

石館先生が同志会に入寮された大正 11 年、小西先生は大学 3 年生、同志会では 1 年間の友情関係でした。その時小西先生は、石館先生を内村鑑三先生とモーク先生にご紹介されました。小西先生は卒業後安田信託に入社され、大阪、福岡勤務でしたから、25 年間は石館先生とお会いになることはほとんどなかったと思います。昭和 22 年 8 月小西先生が第一木材の役員に転出され、同志会の寮に 1 月ほど滞在され、理事長であった石館先生と再会され、24 年 3 月には石館邸で高円寺東教会を開かせて頂くこととなります。このお二人の最初の出会い、再開の出会い程重要な出会いも稀有ではないかと思えます。

10 月 17 日から 19 日まで、黒部溪谷下の廊下の登山をしてきました。黒部下の廊下は、10 年ほど前に行って、紅葉の見事さが心に焼き付いており、もう一度行って見たいと長い間思っていました。夏ごろから計画し、3 人で行くことにしていました。結局は、2 人が直前にキャンセルしたため、単独行でした。好天に恵まれ、紅葉は見事でした。黒部溪谷の両側の急峻な崖の高所に延々と作られた登山道（日電歩道）は、登山道の世界遺産に推薦したいような道でした。黒四ダム上流にあるロッジ・クロヨン朝 4:50 に出発し、阿曾原小屋に午後 4:05 に到着しました。休みの取り方を短くすれば、まだロングコースも歩けると多少自信を回復しました。阿曾原から櫛平までは、水平歩道を、浦松佐美太郎氏の「たった一人の山」という名著を思い出しながら、心豊かな気持ちで歩きました。高校時代岡山エーデルヴァイス山岳会に入って登山を始めた頃、登山は上流階級の趣味でした。我が家は貧乏で、母は自転車で行商をしながら、山行きの費用を出してくれました。その事を思い出し、両親への感謝の思いで胸がいっぱいになりました。

それでは皆様、今頃が一年で一番気候の良い時期と思いますが、どうかお身体ご自愛の程、祈り申し上げます。

敬具

平成 26 年 10 月 25 日

山口周三

エンカウンター of 読者各位